

2016・4・25

「科学がすべてを明らかにする」。子どもの頃の私は、そんなふうに教わったものだった。

しかしそれは正しくない。なぜなら科学は、科学の方法によって解明できることを、明らかにするだけだからである。科学の方法を使えば、宇宙や物質の構造は解明できるだろう。しかし幸せとは何かは、科学では解き明かせない。なぜ解明できないのかといえ

ば、「幸せ」はデータ化できないからである。科学はデータがなければ、一步も前に進めない学問である。

熊本地震が起き、私たちは再びそのことを確認させられたような気がする。熊本で大きな地震が起きるといふデータは、存在していなかった。

地震があのようなたちで短

期間に連鎖するというデータ

も、保存されていなかった。

データがないのだから、被災

者も私たちも一番知りたいこ

れからどうなっていくのか、

地震と噴火は連動していくの

かどうかというようなこと

だから大災害に対しては、

ありうると考えて日頃から準

備をしておくとか、東日本大

震災のときにもそうであった

ように、災害についての地域

の伝承を忘れないようにする

ということの方が、はるかに

大事なのである。さらに大災

くれるのである。

だから私は、人間の知恵や

思いやりが最大限活かされ、

機能する社会をつくらなければ

いけないと思っている。

およそ5年ほど前に東日本

大震災が起こったとき、私た

ちはふたつの現実直面し

災地域に対しては、知恵や思

いやりが全く通用しなかった

のである。できたのは避難し

てきた人たちへの支援だけ

で、原発被災地の復興支援は

やりようもなかった。

このとき私たちは、人間の

知恵や思いやりが全く通用し

科学は何も解明できていない

のだということ、あらため

て確認するしかなかった。

もう一度繰り返すが、科学

はデータの無いことやデータ

がとれないことに対しては無

力なのである。だが私たちの

社会にはデータの無いことが

恵が通用しない冷たい社会を

つくってしまうことになる。

だから、人間の知恵や思い

やり、優しさといったものが

活かされる社会をつくってい

かなければいけないのであ

る。さらに述べれば、こうい

う人間的なものが拒絶される

ものを、原発を含めて、つく

ってはいけない。

誰もが感じているように、

私たちは大災害と隣り合わせ

の社会のなかで暮らしてい

る。いつ、どこで、大地震や

噴火、津波が起きても不思議

ではないし、大きな台風も襲

来するかもしれない。さらに

現在の世界経済を冷静にみれ

ば、これから大きな経済破綻

が発生するかどうか予測で

きない。

こんな何がおきるのかわか

らない社会を支えていけるも

のは、ともに生きていこうと

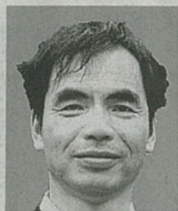
いう願いであり、知恵や優し

## 優しさが活かされる社会を

客員論説委員

内山

節



は、全くわからないままなのは、全くだからないままなの

である。科学は無効だった。

科学はデータがあるわずか

なことしか解明できていない

のである。データがないこと

がおければ「想定外」だった

ということになって、私たち

は何度この「想定外」という

言葉を聞いたことだろうか。昔からの人間たちの知恵や

他者への思いやり、優しさの

言葉を聞いたことだろうか。昔からの人間たちの知恵や

他者への思いやり、優しさの

言葉を聞いたことだろうか。昔からの人間たちの知恵や